

8. eboard による中山間地域中学生への 学習・キャリア教育支援

グループ名：NPO 法人 eboard

代表者：中村 孝一

① 活動の目的

山口県との県境に位置する島根県吉賀町は、深刻な過疎化に直面しており、少子化やそれに伴う学校統廃合、学力格差といった教育課題を抱えています。こうした課題と密接に関わる生徒たちの学習上の課題を解決するためには、地理的、人力的、予算的な制約が大きく、実施が困難な状態にあります。

先の課題を解決するため、私たちは、2013年7月から吉賀町教育委員会と連携し、パソコンルームで無料学習サイト eboard を活用した学習支援を開始、低負担で生徒たちの学力向上に資する学習支援を実施しています。

加えて、ご支援頂きました2014年度の活動においては、学習支援だけでなく、キャリア教育支援を実施致しました。大人のロールモデルが限られてしまっている地方で、多様な職業や人生のロールモデルを示すことにより、学習の動機付けや意欲向上のきっかけとなり、将来、社会の一員として自らの果たす役割について考え、主体的に進路を選択・決定できる力に繋げることを目指し、活動に取り組みました。

② 活動概要

2014年8月6日～8月8日、8月22日～8月24日の間、島根県吉賀町内の蔵木中学校の中学1～3年生、吉賀中学校の中学1年生を対象に、学習サイト eboard を活用した学習支援、およびキャリア教育支援を行いました。幣団体からは、夏期休暇中の社会人・大学生が兵庫、広島から各回3名ずつ伺わせて頂きました。

学習支援については、幣団体で開発・運営している学習サイト eboard (<http://www.eboard.jp/>) を活用し、「自ら学ぶ力をのばす」ことを目標に、ICTのメリットを活かし、小学校の内容から復習する、1学期の復習に取り組む、受験に備えた勉強をするなど、それぞれ自分のペースで学習をすることができました。中学既習範囲の復習やテストが全て終わった子は、満足げに、自信を持って2学期の勉強に取り組んでいたと教育委員会の方からもご好評を頂くことができました。

キャリア教育支援については、予算の関係上、子ども達に提示できるロールモデルが少なかったものの、子ども達にとって身近な大学生の話しや、代表である中村がなぜ NPO として起業するに至ったかなど話をさせて頂き、今の子ども達の学習とのつながりが持てるよう「(長期的な) 目標の立て方」「努力し続ける力」などをテーマに、ワークショップを行いました。

2014 年度後半には、こうした島根県吉賀町での ICT を活用した学習支援の取り組みに対し評価を頂き、総務省が文部科学省と連携して進める「先導的教育システム実証事業」の「実証協力地域」の 1 つとして、吉賀町を取り上げて頂くこともできました。また、同事業に対して、他の ICT や教育関連企業と並び、NPO 法人 eboard の学習コンテンツを採択頂くことができました。同様の取り組みは、2014 年 10 月から隣接する津和野町、2015 年 4 月からは同益田市へと広がりを見せ、中山間地域の学習支援モデルとなりつつあります。

③ 活動報告書

収入	
大同生命厚生事業団助成金	100,000 円
支出	
旅費交通費	
西宮—広島—吉賀町（六日市）往復 × 2 回分	24,620 円 × 2 回 = 49,240 円
広島—吉賀町（六日市）往復 × 2 回分	4,620 × 2 回 = 9,240 円
宿泊費	6,000 円 × 2 泊 × 2 名 × 2 回 = 48,000 円
支出計	106,480 円

④ 活動の様子

